

子どもとかけっこ

東京女高師
附屬幼稚園

岡崎 脩子

子どもが走るのを見ていますと、實にのびのびとしています。大人のそれは、大抵或る必要があつて走るので、何か窮々とした感じがしますが、子供は何とゆう事なく、たゞ走るるので、其の走り方が、型として整つていないにしろ何にしても、本當に美しいものです。

又これを競争的に取扱つた場合は、どうかといふますと、これも大變に喜びます。運動會がやつとすんだ或る日、久しぶりに、ゆつくりとした氣分で、お遊びの仲間に入つていまして、三四人の男の子が走つてきて、「先生、又運動會しようよ。」としまりに云うのです。「運動會？」とつさに私は先日の運動會の様子を思い出し、又幼稚園だけでしたい、とゆうのかしら。と思つたのですが、次に、「うん、あの走るのさ」と云われて、子供の云う運動會は、即ちかけっこだつたのだと今更の如く感心し、面白く思つたのでした。

此のように走り比べになると、大抵誰もが好んでします。出發點の所に並んだ子供達の、今まさにとび出さんとする時の顔は、見ていると生氣が溢れていてすばらしいものです。その上うれしき事には、勝敗など一向にかまわず、合圖により皆と一緒に自分の力一杯走る、それで満足する事です。

さてこれから寒い四ヶ月程の間、いくら「子供は風の子」といつても、一たいに非活動的になり易いので、子供をちよこまらせず、喜んで遊べるように、走る事を工夫し取り入れやるとよいと思ひます。

○競争的走の種類と取り扱ひ方

1、普通のかけっこ。

一番やさしいけれど、大變興味をもつてします。走らせる時は、眞直に走る事がむづかしいので、間隔に氣を附け、出きたらコースをかいてやり、餘り多勢で無い方があぶなくありません。又出發點、決勝點をはつきり分るようにしてやります。特に決勝點は、目標に向つて走る、とゆう事を自覺させる爲に、目立つテープ等張つてあつた方がよいと思ひます。走らせる距離としては、二〇米——三〇米位で、半分で折り返すよりも、眞直に走る方が衝突する危険がありません。

競走となりますと、走る事と共に「競争」とゆう事が取り上げられてきます。始める前に約束して、(イ)出發を正しくする事、(ロ)終りまで一生懸命にすること、(ハ)自分ですんでも、ばら／＼になつてしまわずに、腰をおろして見ているとか、お友達を應援する。等、其の時に起つてきた事柄に應じ、時機をのがさず導いてゆけばよいと思ひます。

2、繼走

六歳位より段々と面白さが分つてきますが、大體年長組の子供達の喜ぶものです。繼走になると、早く自分が走りたい

爲、出發の仕方がまち／＼になり易いので、何か危くないものを持たせて、それを出發點のところ受渡しする事を特にはつきりと教えてからにします。繼走にいろ／＼あります。(イ) 向うにあるものを廻つてきます。さわつてくるだけでは、規則を守らぬ子供が出來ますので、はたで見てもはつきりと分るように廻らせる方がよいと思ひます。

(ロ) 川を越す。(イ) と同じ方法ですが、途中に「川」でも作つてやりますと又變つてきます。「川」は餘り太くなく、始めは唯走りながら跳び越す事だけで、落ちても別にかまわぬ事とし、跳切つて跳ぶ事をするようになってきたら、落ちぬように注意させます。この時も「川」は、はつきりとかいてやります。

(ロ) 置換競走。椅子等を先方に二個置き、其の上に置いた物を行つて反對の椅子の上に置きかえて歸つてきます、これは椅子等の様に、床より高い所でする方が、地面で置換えるよりも、はつきりと他の人に見えるし、従つて分らなかつた子供もみているうちに分り效果的だと思ひます。これを前後の置換競走にしても出來ます。

(ニ) 次に置いたものを一つ一つ廻つてくる。一番後の標の廻り方と、始めの二つの廻り方の違ひをよく教へて上げましょう。

(ホ) 置いたものをぬうて走る。動き方がむずかしいので、始めは先生がついて、一度歩いてみると、言葉で云うより分り方が早いと思ひます。

此の他色々と組合せたものがあると思ひますが、餘り複雑になつて、分らぬ子供が出來ますと、興味が半減されてしまいますから、やさしく喜んで出來るもの、方がよいようです。この他、繼走になりきすと待つ間があるので、騒がしくなつたり、あきたりし易いので、人數を適當にして、組數を多くした方がよろしいです。

躰としては、

きめられた事を正確にする。

持つて走るもの、受渡しや、物の置換え方を丁寧。

列をみださぬように應援すること。

○遊戯的走の種類と取扱ひ方

今迄は競走的な走についてでしたが、「鬼ごっこ」等は走を遊戯的に取り扱つたものとしてあげる事が出來ます。これらのよい事は何時でもやりたいとゆう人だけで、手軽に出來ることです。「鬼」とゆうものにつかまる、とゆう事と、若しつかまつたら自分が「鬼」とゆうこわい感じのするものにな

らなくてはならない、とゆう事で、非常に夢中になつてしま
す。

(イ) 陣を作つた普通の鬼づつこ。

(ロ) 陣の間に纏走と同じく「川」をつくり落ちぬやうにと
び越す。

(ハ) しやがみ鬼。鬼づつこになると、追われるものは氣が
あせるので、ころび易い。特にこれは急にしやがむ事がある
ので、前にのめつたりし易いので十分氣をつけさせます。

(ニ) ジャンケン鬼。兩方より出て来て、ジャンケンをして
勝つた方が追います。

(ホ) 出ると鬼、出ないと鬼。皆陣に入つているところで、
鬼が「イツサンバラリ出ナイト鬼(出ルト鬼)」と云い、そ
れにより出た人をつかまえたり、間違つた人が鬼になります。
(ヘ) 子トロ子トロ。一列につながり、先頭の人は兩手をひ
ろげて鬼の邪魔をし、鬼は一番うしろの人をつかまえます。
後の方についている人は、振られて轉ぶ事がありますから氣
をつけさせます。

○走る時注意すべき點

(一) 走る時は夢中で他のものには氣がつきませんから、行
う所の地床は十分注意して、石ころとか凹凸の無いところ
でする事が大切です。何でも無い事のようにですが、はずみ
でどんな事が起らないとも限りませんので特に氣をつけた

い事です。

(二) 子供は心身の調子により長い距離でも走りますから子
供にまかせておいてよいのですが、長く走る事を強いたり
はしない事です。又かけっこ、纏走などする場合は、身體
の調子の悪い子供はぬかしてやりましょう。

(三) 走り方は別にかまわれないと思いますが、よくころぶ子
供は後ろにばかりけるが、又足を引きずるようにして走る
ため、もゝの上り方がたりないで、起る事が多いから、足
踏の時歩く時もゝを高くあげさせたりして、段々に練習し
ていくとよいと思います。

(四) 走つてゐる間の呼吸の仕方は鼻でするのがよく、特に
これから寒い時口でするとのどを害しますから鼻でする習
慣をつけましょう。

(五) 室内で行う場合は、室内をきれいにし、ほこりの立た
ぬように行ひ、窓をよくあげ換氣に氣をつけます。

(六) 走つたあとは、のちに寒くならないように十分汗をふ
きとせませす。

ここにあげたものは、普通一般に行われているものです。

此の外、各地方につたわる郷土色豊かな遊びを取り入れたり
工夫なざる事も大變面白いと思ひます。

いづれにせよ子供が喜び、進んで遊ぶ事が出来るように細
心の心ずかひをもつて導きたいと思ひます。